

夏の交通安全県民運動が始まります

自転車通学についての重要なお願い

～地域からの強い声を受けて～

最近、地域の方々から、みなさんの自転車通学のマナーについて多くの心配の声が寄せられています。これは単なるお願いではなく、「このままでは事故が起きるのではないか」「地域の安全が保てない」という、非常に深刻な訴えです。具体的には、次のような問題行動が報告されています。

- 道路いっぱいに広がって走っている（2人～4人並んで走行）
- 車が近づいてもすぐに一列にならない
- 地域の方が注意しても反応が鈍い、無視されることがある
- 十字路で一時停止をしない
- 帰り道に右側通行をしている（これは交通違反です）
- 下校時にヘルメットをかぶっていない人が多い

これらの行動はすべて、自分の命や周りの人の命を危険にさらす重大な問題です。万が一、事故が起これば、命を落したり、大きなけがを負ったりすることもあります。さらに、自転車のルール違反や危険行動は、交通違反として警察から注意や指導を受けることもあるのです。

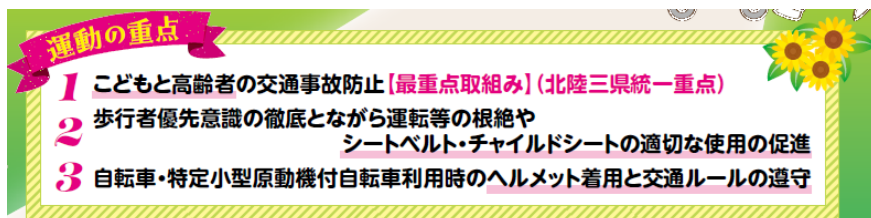
地域の方々には「子どもたちを守りたい」という思いで声をかけてくださっています。それなのに反応がない、無視される…という報告があったことは、本当に残念でなりません。学校としても、この事態を重く受け止め、今後はこれまで以上に厳しく指導していきます。特に、次のことを必ず守ってください。

- ☐ 自転車は必ず左側通行。右側を走るのは交通違反です。
- ☐ 横に広がらず、一列で走行すること。
- ☐ ヘルメットは通学時、必ず着用すること。
- ☐ 十字路や交差点ではしっかり止まる。
- ☐ 地域の方からの注意にはきちんと耳を傾け、感謝の気持ちを持つこと。

これらのルールを守れない場合は、学校としても個別に対応を行います。大切な命を守るため、そして地域の信頼を裏切らないためにも、一人ひとりが強い意識を持ってください。

「自転車は便利な乗り物」であると同時に、「命に関わる乗り物」です。自分と他人の安全のため、必ずルールを守って登下校するようにしてください。これは「お願い」ではなく、「大切な約束」です。

夏の交通安全県民運動が7月11日から20日まで行われます。ぜひ右の重点項目を確認しましょう。

A colorful graphic for the Summer Safety Campaign. It features a green background with yellow and orange accents. At the top, a banner reads '運動の重点' (Key Points of the Campaign). Below this, three numbered points are listed: 1. '子どもと高齢者の交通事故防止【最重点取組み】(北陸三県統一重点)' (Prevention of traffic accidents for children and the elderly [Top priority initiative] (North Shikoku Three Prefectures Unified Priority)), 2. '歩行者優先意識の徹底とながら運転等の根絶やシートベルト・チャイルドシートの適切な使用の促進' (Thorough implementation of pedestrian priority awareness and elimination of driving while using a mobile phone, etc., and promotion of proper use of seat belts and child seats), and 3. '自転車・特定小型原動機付自転車利用時のヘルメット着用と交通ルールの遵守' (Wearing a helmet and遵守 of traffic rules when using bicycles and specified small motorized bicycles). The graphic is decorated with sunflowers and a small illustration of a person riding a bicycle.

勝負の神は日常の細部に宿る

最近の学校での皆さんの様子を見てみると、気になることがあります。「まあ、このぐらいはいいや。」と、勉強面でも生活面でも、自分に対して妥協している人がいます。授業中ぼーっと受けたたり、宿題をずるしたり、時間に対してルーズになったり、靴のかかとを踏んづけたり、爪が長かったり、だらしない格好をしたり……。同じように、希望があっても行動しない人……。勉強な

ど今やらなきゃいけないこと、直した方がいいことは、たぶん、その人が一番良く感じていること
でしょう。なので、注意されれば直しますが、逆に注意されなければ、そのまま……。また、
自分からではなく、言われてやるので続かない……………。

「天知る、地知る、己知る」「三日坊主」など、昔の人はそういう行動を戒めてきました。私は、
そういうごまかしや嘘に運を使うのは嫌いです。そんなところに運を使いたくないし、すぐに直せ
るのに、直さないことを決めているのは自分であることを知っているからです。私はそれで何度も
失敗しているので、その弱さがもたらすものの怖さを知っています。自分に妥協している人は、
まだ気づきませんか？失敗したり、失ったりしていること、そして、すぐにできることがあること
に気づきませんか？

岡田武史さん。日本代表の監督でもあり、現在はFC今治運
営会社「株式会社今治、夢スポーツ」代表取締役をしています。
彼のことが「リーダーの研究」という本に書かれています。今
日はそのことを少し紹介します。

（前略） 勝利の神も細部に宿ると確信する。「勝負事は小さ
なことの積み重ねなんだ」。2002年末、横浜Mの監督になっ
た岡田が最初に手をつけたのは、選手のロッカールームの掃除
だった。用具が部屋に散乱していた。念頭にあったのはニュー
ヨークの逸話。地下鉄に氾濫する落書きを、ひたすら消した
人々の物語だ。いちごっこを繰り返しながら、めげずに消し続けることで、やがて誰も落書きを
しなくなり、同時に町の治安も改善された。

岡田はロッカールームの乱れに、勝利への執着心に欠けるクラブの体質を重ね合わせた。「自分
の身の回りのことができないで、いい練習などできない」と、ピッチに至るまでの心構えの大切さ
をまず説いた。練習中のランニングでは、1メートルでも近道する選手を容赦なく叱った。選手の中
には、グラウンドに置かれた走路の目印となるコーンの内側をずるして走るものがいた。「俺は運
を逃がしたくない」が口癖で、その1メートルの妥協が球際の1ミリの弱さに表れ、試合を落とす
原因になることを知っていた。「死ぬ気で勝ちます、優勝しますとなんば言っても、遠い未来のこと
を夢想するだけで優勝できるはずがない。やれることは結局、日頃のコンディショニングをきっちりと
管理し、練習に集中して、試合でベストを尽くすことしかない」

練習に来たらあいさつをする。移動のバスの中では携帯電話を使わない。そうしたことを積み重
ねれば、選手もスタッフも気持ちよく練習や試合に入ることができ、自ずと効果も上がるという。

「根性論と言われるかもしれないけど、今シーズン貫いてきた、目の前の敵に負けない、最後ま
であきらめない姿勢が、血となり肉となった気がしたね。チームのためにひたむきに戦い、そうし
て得られる感動を、彼ら自身が感じてくれたのがうれしかった。一度その味を覚えると、また味わ
いたくなる。そうなれば、もう大丈夫なんだ」

ロッカールームは就任当初より、整然としてきた。しかし岡田は「選手が練習場に来れば、自然
と床を磨き出すくらいじゃないとね」と満足していない。それは、1年完全優勝したくらいで満足
するな、というメッセージでもあるのだろう。視線は既に前を向いている。横浜Mを磐田、鹿島の
2強と肩を並べる「ストロング（常勝）チーム」に。そして、誰もが強さを認める「グレート（偉
大な）チーム」に時間をかけて昇華させる。（後略）

最後に、デットマール・クラマー。かつて、バイエルン・ミュンヘンの監督として欧州、世界
チャンピオンに輝き、東京五輪の日本代表のコーチとして、メキシコ五輪の銅メダル、指導者育成、
日本リーグ発足に力を尽くし、「日本サッカーの父」とも呼ばれる人の言葉を紹介しします。

Der Sieg über sich selbst ist der höchste Sieg
（自らに打ち勝つ勝利こそ、最高の勝利である）



（出典 取り戻したファイティングポーズ！苦悩の指
揮官、岡田武史の「転機」。 - サッカー日本代表 -
Number Web - ナンバー）